

住民中間報告会を開催

11月30日（火）

平成22年11月30日午後7時より、福智町公民館金田分館において「福智町地域福祉活動計画住民中間報告会」を開催しました。行政・社協関係者、区長、作業部会委員等118名が参加しました。

開講式では社会福祉協議会白石会長、地域福祉活動計画策定委員会犬養委員長の挨拶のあと、浦田町長が挨拶、あわせて策定委員会から提出した行政課題に関する回答もいただきました。



次に策定委員会事務局の中野が地域福祉活動計画の中間報告をおこないました。策定のこれまでの経過と計画の基本となる理念やスローガン、目標を説明。少子高齢化による現在の福智町の高齢化率や高齢単身世帯率などを数値を見ながら説明し、今後の取り組みについて話しました。

福智町の高齢化率 25.4% → 5年後の高齢化率（予想） 29.8%

（全国平均22.1% 福岡県21.4%）

福智町の高齢単身世帯率 20.0%（5世帯に1世帯が65歳以上のひとり暮らし世帯）

福智町の出生率 8.5人 ※人口千人に対しての出生数

（全国平均8.7人 福岡県9.0人）

平成22年8月現在



最後に中間報告を受けて、筑紫女学園大学大学院山崎安則教授に「安心して暮らせる地域へ…住民・行政・社協の役割」と題して講演をいただきました。

行政計画である地域福祉計画と社協の地域福祉活動計画がセットで策定されている市町村はまだ少ない。この両方の計画を策定することが、まずは地域福祉推進のための原動力になる。

また計画の策定にどれだけの人に関わったか、できるだけ多くの町民に関わることが大切である。

「この町はかわったな～」ではなく「この町をかえてきた」と町民ひとりひとりが感じることができるよう、町と町民との「一体感」が必要である。と述べられました。

またこれからの福祉では、制度や財政ではなく、「人」がすべて、「人」が資源である。住民ひとりひとりがそれぞれの役割を持つことが必要になってくる。そのための場づくり、きっかけづくりを進めていくのが福智町地域福祉活動計画の重要なポイントになると述べられました。